

人間科学研究所 研究実践プロジェクト 「現代人の心の危機に関する共同研究」

～Phase 5～ 過去と向き合い、未来を創る」

人間科学研究所長

川田 都樹子

「甲南新世紀ビジョン」

甲南大学人間科学研究所は、平成十四年の開設以来、「人間科学 (Human Science)」という広い学問領域を背景にしつつ、現在私たちが社会のなかで経験している多くの問題に多角的に取り組み、特に「現代人の心の危機」に焦点を絞って研究活動を続けてまいりました。甲南大学では、平成三十一年の甲南学園創立一〇〇周年に向けて、このたび、各部署が新世紀に目指そうとする姿を「甲南新世紀ビジョン」として掲げることとなりました。そこで、人間科学研究所は、「甲南新世紀ビジョン」として、以下のような目標を設定いたしました。

- 一 臨床心理学・医学と、人文諸科学の各分野の融合という他に類を見ない共同研究体制をさらに充実させ、人文系学問領域の実践的研究力の可能性を拓く手本となる。関連領域に関する情報の整理集積を常に広く公開し、研究者や実践家といった専門家の情報ネットワークの拠点となる。
- 二 一の極めて特長のかつ高度な研究力を地域の生涯教育に還元し、地域とともに発展していることで知られる研究機関になる。
- 三 一の特色ある高度な研究成果を学生教育に反映させ、未来の地域社会のリーダーとして社会に貢献できる人材を育成することで、地域と大学・学生をつなぐ要となる。

人間科学研究所では、この実現に向けて新たな協同研究体制の確立を目指すこととなりました。平成二十五年より当研究所で取り組んでまいりました研究プロジェクト「良きサヴァイヴァルに向けてーグローバル化のなかでの研究ネットワークの構築」と、平成二十六年度に着手した実践プロジェクト「地域での『癒やす力』『育てる力』を高める心理的・芸術的支援モデルの構築」という二つのプロジェクトを発展的に継承しつつ統合整理する形で、この平成二十八年度からは、研究実践プロジェクト「現代人の心の危機に関する共同研究～Phase 5：過去と向き合い、未来を創る」を開始しております。

「過去と向き合い、未来を創る」

本研究実践プロジェクトにおきましては、これまでの活動を以下の項目に整理し、兼任研究員がそれぞれのチーム・リーダーとして研究活動と実践活動を統率管理しています。

(1) 「過去と向き合う」

(a) ト라우マ研究

「トラウマ」は、個人の心への暴力的作用から、社会全体が受ける傷まで、幅広い現象を指して使われる言葉です。当研究所では、このトラウマに関わる研究に設立当初から取り組んでまいりました。安易に使われる傾向もないとはいえないこの言葉の核心を再吟味し、有効なトラウマ臨床のあり方を探っています。

(b) その他の歴史的研究

戦争体験、「芸術と福祉」の歴史、芸術療法史、精神医学施設史、心理学と他ジャンルの関係史などの歴史研究にも継続して取組んでいます。

(2) 「未来を創る」

(a) 子育て・発達支援

このテーマに関しましては、これまで、研究としても実践活動としても展開してきましたが、特に平成二十八年度からは、「ひょうご子ども・子育て未来プラン」連携、研究教育プロジェクト」として新たな一歩を踏み出しました。これにつきましては、章を改めてご説明したいと思います。

(b) その他の研究実践活動

心理臨床・精神医療に関する実践活動や情報の提供と啓蒙活動、地域医療の検討、偏見・ステイグマ軽減のための啓蒙、甲南アトリエにおけるアート・ワークショップなどを精力的に展開しています。

それぞれの項目に関しまして、従来どおり公開研究会・公開講座・講演会・ワークショップ・公開シンポジウム等々を開催しておりますが、本年度からは活動内容をより「見える化」することで、学内外に研究力・融合力をアピールすることに努めています。広報活動に力を入れ、ホームページのデザインをより分かりやすく、また情報にアクセスしやすい形に修正する計画も立っています。また、チラシ・ポスターの宣伝効果を高めるために郵送先や掲示場所を検討・拡張し、活動内容の周知に努めています。

「ひょうご子ども・子育て未来プラン」連携、研究教育プロジェクト

前述の「Phase 5」のうち、(2)ー(a)のテーマである子育て・発達支援に関しては、『ひょうご子ども・子育て未来プラン』連携、研究教育プロジェクトとして新たな一歩を踏み出しました。これは、「KONAN プレミア・プロジェクト」の「Research & Education プロジェクト」のひとつに採択されたもので、期間は平成二十八年度から平成三〇年度です。このプロジェクトを通じて、ますます深刻化する少子化問題に対する大学の使命を検討し、地域貢献の実践方法を探求してまいります。また、これを機会に、人間科学研究所の「子育て支援」の研究活動を全学体制に拡張し、様々な専門分野を横断する学際的研究チームを結成しました。今後は、公開研究会等を通じて、地域社会全体の環境と意識の改善に取り組んでいきたいと思っています。

「ひょうご子ども・子育て未来プラン」とは、兵庫県が「兵庫県子ども・子育て会議」において推進している少子対策・子育て支援の政策です。当研究所も、この兵庫県との連携体制によって、「子育てしやすい地域環境づくりのための人材育成」に取り組み、理想的な地域環境づくりに貢献することを目指します。

まず、甲南学園創立一〇〇周年にあたる平成三十一年度に、甲南大学の共通教育科目として、①「子育てと社会」、②「アートと発達支援」という二科目の授業を開講することを計画しました。現在着々とその準備を進めています。この二科目は、甲南大学の学生のための授業科目にするのと同時に、連続公開講座として一般からの受講も広く受け入れる「地域オープン型科目」とし、学生が市民とともに学び意見交換する機会を提供したいと考えています。そうすることで地域と大学・学生をつないでいきたいと願っています。そして何より、この共通教育科目開講によって、人間科学研究所の研究成果を学生教育と地域貢献とに活かしていけたらと思います。科目の概要は以下の通りです。

①「子育てと社会」

結婚・子育てに対する若者の意識の変化、職場環境での子育て中の者への福利厚生が遅れ、若者人口の減少、子育て中の親の孤立化や深刻な児童虐待など、子育てをめぐる環境は様々な課題に直面している。「地域社会全体での子育て」が今こそ必要である。この科目では、社会による子育ての意義や方法論を学んだうえで、人間科学研究所で展開している子育て支援の実践例や、地域のNPO団体の代表者や「父親の子育て」を推進するグループ等の実践報告

から地域の実情を把握する。学生は、授業の中に組み込まれた市民との相互交流・意見交換を通じて、ともに「社会で育てる・社会で育つ未来」を考えていく。将来「親」になる者として、また、地域社会の一員としての学生の意識向上を促し、未来の地域社会・子育て環境形成のリーダーとして活躍できる有能な人材育成を目指す。

②「アートと発達支援」

【教職推奨科目】教育の現場では、発達に問題をかかえる子どもに対する適切な支援のあり方をめぐる試行錯誤が続けられている。そのなかで、障がいのある人たちの生み出すアートが新鮮な驚きと感動を与えるものとして各界で話題を集めており、障がいのある人たちの自立支援の方策として厚生労働省・文部科学省をはじめ公共的な政策としても注目されている。この科目では、発達に問題をかかえる子どもへの理解を深めるとともに、アートを通じて彼らを支援する方法を考えていく。地域で活動する支援団体や障がい児の美術教育の現場などからゲスト講師を招いて話しを聞く機会も設けつつ、学生と市民とが意見交換し、教育者⇨支援者の将来像をとらえて探っていく。

この共通教育科目開設の準備として、まず平成二十八年度は、

市民向け連続公開講座、①「子育てと社会―大学の役割を考える」、②「アートと発達支援―学校から地域社会へ」を開始しました。学生にも広く参加を呼びかけ、学生のニーズと最適な教育方法を検討しつつ科目新設の準備を進めています。講師は人間科学研究所兼任研究員の他、地域在住の専門家等を招聘しました。また、受講者のうち有志には、人間科学研究所で展開する、より実践的な活動に参加する機会も提供しています。例えば、①は「子育て支援」の実践プログラム、②は「甲南アトリエ／造形クラブ」での、障がいのある児童への芸術を通じた支援活動などです。

また、市民および学生の受講意欲を促進すると同時に本活動の認知度を高めるために、「講座受講証明書」と「スタンプカード」と「修了認定ステッカー」の発行を始めました。「講座受講証明書」は公開講座を一回受講した方に発行し、また連続して受講したことを確認できる「スタンプカード」を配っています。連続講座の全課程を修了し、このスタンプが集まった受講者には「修了認定ステッカー」を配布します。このステッカーは施設玄関などに貼れるものですので、ぜひ今後、多くの施設の玄関先でこれを目にするようになってほしいと思っています。また、公開講座では、研究員が受講者の受講前後の意識調査を行うことで教育効果を測定しています。これを教育効果研究の資料として活用するとともに、その成果を平成三十一年の共

通教育科目開講に活かしていきたいと考えています。さらに、科目開設準備期間に行う公開講座の内容とその教育効果測定結果はパンフレットにまとめ、これを「地域オープン型科目」の受講を呼びかける宣伝にも使っていく予定です。また、平成三十一年度の科目開講に向けて、独自のテキストを編纂し市販書籍としても発行するという計画も進めつつあります。

また、人間科学研究所には「子育て」に関する多くの研究資料、書籍や専門雑誌等々の蔵書があります。これらを、「子育てライブラリー」として研究者や実践家(NPO)などに開放していきたいと考えています。現在、そのための準備を進めており、平成二十八年度は、試験的に学内者向けの閲覧ライブラリーとして運営を始めました。将来的には、ここに「相談窓口」を設け、情報を積極的に提供し、専門家の情報ネットワーク拠点を構築していけたらと考えております。この「窓口」に寄せられた「相談」の内容は、共通教育科目の授業内容にも反映させる形でフィードバックしていく予定です。現在、平成三十一年度の共通教育科目新設と同時に、一般に向けてもライブラリーを開放できるよう環境整備を進めています。

子どもたちの未来と地域社会の未来、そして研究教育機関としての大学の未来、その理想像をともに考えていくことができれと思います。これからの甲南大学人間科学研究所の活動に、どうかご期待ください。今後とも宜しくお願いいたします。